

頭の回転が早い。質問の答えが瞬時に返ってくる。町会議員を7期務めただけに弁舌もさわやかだ。「井手町の歴史は宮本に聞け」といわれる。歴史好きの仲間4人で「井手町ふるさとガイドボランティアの会」を立ち上げ、会長を15年務めている。

「井手町はね…」と、まずは歴史の始まりから説明してくれた。「奈良時代の中期、政治の中心にいた橘諸兄がこの地に別荘を建て、平安時代には玉川の山吹と蛙（かわず）が有名になり、古典文学に登場する和歌は小野小町をはじめ 350 首を

ご指名かかれば

体もシャン



井手町ふるさとガイドボランティアの会会長

みやもと としゆき
宮本 敏雪さん (82)

数えます」。詩情たっぷりの名調子である。

「ガイドの会」の会員は現在 16 人。平均年齢 70 歳、最高齢は 90 歳だ。「3つのウォーキングコースを用意してい



ますが、お客さんの体調や帰りの時間などに合わせて、臨機応変に案内させてもらっています」。京都、奈良、大阪などから大学の先生や文化人、歴史好きのリピーターも多いという。「会員全員が生まれも育ちも井手町ですので、単なる知識だけではなく自分の体で覚えている話があります。話題を途切らせず、お客さんに飽きさせないのが、わが会の自慢です」と力を込めた。

「ガイドする時は一日に 10 ㎞以上は歩きます。風邪をひいていてもご指名がかかれれば体はシャンとします。ガイドの仕事は私の健康法であり、生きがいでもあるんです」

宮本さんにはもう一つの顔がある。集中豪雨で井手町を中心に死者・行方不明者 336 人の犠牲者を出した昭和 28 年南山城大水害の語り部を 10 年前から続けている。対象は町内の小中学生たち。「私の家も流され、閉じ込められた 2 階の壁を打ち破り家族 5 人が九死に一生を得ました。あの惨事をふるさとの子どもたちに伝えておきたいんです」。「わがふるさと井手」に寄せる思いと愛情があふれた。今年 28 日に 83 歳になる。



宮本さんにはもう一つの顔がある。集中豪雨で井手町を中心に死者・行方不明者 336 人の犠牲者を出した昭和 28 年南山城大水害の語り部を 10 年前から続けている。対象は町内の小中学生たち。「私の家も流され、閉じ込められた 2 階の壁を打ち破り家族 5 人が九死に一生を得ました。あの惨事をふるさとの子どもたちに伝えておきたいんです」。「わがふるさと井手」に寄せる思いと愛情があふれた。今年 28 日に 83 歳になる。

